

令和七年三重県支部俳句大会成績

日時 令和七年五月二十二日（木）

会場 三重県支部総合文化センター

応募句

蘭草 慶子（本部選者） 特選

初蝶の溺れさうなる野のひかり

米野てるみ

あめんぼう流れをつかみ流れざる

石井 洋子

坂口 緑志 特選

花冷の古町に買ふ絵らふそく

森下 充子

福山 良子 特選

菜の花や手押し車にひよこ組

池田 綏静

橋本 石火 特選

母の間に誰か来てゐる春障子

前田 照子

平田 冬か 特選

今年竹風の触れ合ふ高さまで

小掠千代子

佐藤 茂 特選

目に見えぬ糸をたぐりて揚雲雀

石井いさお

山中 悦子 特選

初蝶の溺れさうなる野のひかり

米野てるみ

芦田 昌男 特選

一村の獣道いま花の径

野田美保子

前田 照子 特選

竹林に夕日ただよふ徂春かな

橋本 石火

金津やよい 特選

あめんぼう流れをつかみ流れざる

石井 洋子

福田 容子 特選

歩くことできる幸せ木の芽風

塗矢智恵子

三ツ矢龍美 特選

桜咲く村の歴史を負うて咲く

梅枝あゆみ

応募句高点句

六点句

初蝶の溺れさうなる野のひかり

米野てるみ

五点句

花冷の古町に買ふ絵らふそく

森下 充子

四点句

あめんぼう流れをつかみ流れざる
母の間に誰か来てゐる春障子
菜の花や手押し車にひよこ組
老木の洞の中より芽吹きたる

三点句

竹林に夕日ただよふ徂春かな
浴びるほど祝ひのことは卒業す
すずのや
鈴屋は二階の小部屋木の芽風
もたれゐる大樹にぬくみ芽吹晴
散りそめの一樹を選ぶ花筵

石井 洋子
前田 照子
池田 綏静
山崎 馨
橋本 石火
速水 英子
樋口 精一
手塚 泰子
久世 伸子

当日句

蘭草 慶子（本部選者） 特選
子燕の翼あることまだ知らず
ぼうたんの一番花は亡夫のもの
坂口 緑志 特選
緑さす牛の仔の角ふくらみて
福山 良子 特選
酒蔵の匂ひに育つ燕の子
橋本 石火 特選
凭れあふ古長靴や夏隣
平田 冬か 特選
風の織る波はちりめん植田水
佐藤 茂 特選
一線に沖に立ち来る鰹潮
山中 悦子 特選
大皿の濤に乗りたる初鰹
芦田 昌男先生 特選
九九唱へながら帰る子麦の秋
前田 照子先生 特選
太陽のいちばん匂ふ梅筵
金津やよい先生 特選
鼻の泥拭ふ泥の手田植会
福田 容子先生 特選
太陽のいちばん匂ふ梅筵
三ツ矢龍美先生 特選
田を植ゑて離農のことは言ひだせず

久世 伸子
古川 和子
芦田 昌男
宮谷ふさ子
安保 雅司
赤塚 靖子
福山 良子
塗矢智恵子
服部登紀子
水野 悦子
前田 照子
水野 悦子
松本 愛子

当日句高点句

十点句

風の織る波はちりめん植田水

赤塚 靖子

玉苗を放り山影散らしけり

宮谷ふさ子

九点句

大植田板一枚の水加減

松葉ツヤ子

六点句

酒蔵の匂ひに育つ燕の子

宮谷ふさ子

田を植ゑて離農のことは言ひだせず

松本 愛子

雨の日は雨に透きゆく若楓

佐々木経子

皮脱ぎし竹まだ誰も触れてゐず

平田 冬か

五点句

緑さす牛の仔の角ふくらみて

芦田 昌男

大皿の濤に乗りたる初鰹

塗矢智恵子

伐つて伐つて大緑陰を持ち去りぬ

古川 和子

どこからを余生と見るや更衣

豊田麻佐子

※高点句賞は一人一賞のため二句目は辞退していただきます。